

インターンシップ評価に関する 効果検証についての一考察

須永 一道・齋藤 智・柳澤 利之

Investigating the Usefulness of Internship Evaluations

Kazumichi Sunaga, Satoshi Saito, Toshiyuki Yanagisawa

1. はじめに

先に我々は、PBL型インターンシップ（Problem Based Learning：課題解決型学習）の発展形態として、一定のエリア内ではあるが、学生自らが実習先を開拓し、その場所で課題を発見し、解決策を提案・実行する、例えて言えば「飛び込みセールス型」のインターンシップを実施した。全国の大学・短期大学などで様々なスタイルのインターンシップが、学生に対するキャリア教育を行う中で有効な教育的効果を有するものであることが、夫々実証されてきている。我々もこの新しい形式で実施したPBL型インターンシップ（地域ミッションインターンシップ：以下地域インターン）において、受講学生各自が、当該インターンシップに参加する前と終了後でどのように成長したかについての効果検証を行った。本稿は、その結果に基いて、当該インターンシップの有する教育的効果について検討した結果を纏めたものである。

2. インターンシップ実施時における評価目的

大学主体で実施されているインターンシップは、多様化を進めながら拡大されている。その背景には大学におけるキャリア教育の重要性が増すことと大きく関係し、学内での取り組みではなく学外でのさまざまな刺激を求めていることが見えてくる。

しかし、その効果測定となるとこれまで各大学内で作成された評価基準により実施されており、効果検証が進んでいないのが現状である。

本学においてもさまざまな試みを行ってはいるものの、これまで明確な基準が作成されていなかった。本研究においては、地域インターンに参加した学生を対象に、本学作成の基礎力チェックとPROGを併用することで学生の成長とインターンシップの効果検証を行った。

（PROGは学校法人河合塾と株式会社リアセックが共同で開発したジェネリックスキル測定と学生成長を支援する新タイプのプログラム「参考資料：PROG概念図」参照）

3. 調査方法

本学においては、大きく2つの体系でインターンシップを実施している。

一つは体験型と言われる企業や自治体で実施されているインターンシップであり、基本的には5日から10日の期間で、職場の社員の方々から指示を受け業務を体験するものである。そのためこのインターンシップでは、学生の参加意識が受け身であり自主的に活動することは少なく、指示を待っての行動に終始する傾向が強い。

一方でインターンシップを体験で終わらせないために、多くの大学でPBL型のインターンシップが展開されている。学生が単純な参加で終わらず提案、実行、振り返りを目指したインターンシップであるが、実際は企業と大学教職員でテーマを事前に準備し、学生は敷かれたレールに沿って活動を展開することを考えれば、これまでの経験型と大きな変化はないと考えている。変更点としては見えるかが進展した取り組みであり、参加学生の意識として活動が見えるだけに、成果の共有、問題共有が図られる点では効果があると考えている。

しかし、昨今の学生に求められている自主的な取り組みという点を考えると、もう一步踏み込んだ取り組みが必要であることから、本学で導入したのが地域インターンである。活動範囲が決められた中とは言え、学生自身が自由に動き、地域の方々とふれあい、現状を共有し課題を発見し解決策を提案、実行することを一連の流れに活動していることは、学生の成長に大きく寄与しているものと考えている。

そこで、本研究においては、この地域インターンに参加した学生評価を検証することで、インターンシップの評価の有効性について効果検証を進めた。

地域インターンについては、新潟青陵大学短期大学部と同様の取り組みを新潟青陵大学看護福祉心理学部福祉心理学科1年生・2年生を対象に実施している。大学における取り組みとしては、地域インターン受講生を対象にしたプログラム（地域ミッションインターンシップⅡ）も用意されており、地域インターンで目指しているプログラムの全体が終了していないことから効果検証を進める過程を考え、本研究においては新潟青陵大学短期大学部で実施している地域インターン参加学生に限定した。

なお、今年度の取り組みとして実施した地域インターンは、次の内容である。

表1 「地域インターンの概要」

インターンシップ種類	活動場所	活動時期	その他
地域ミッションインターンシップⅠ (新潟青陵大学短期大学部:1年生)	古町5番・6番・7番町	平成26年8月31日 ～9月18日	参加者:16名 単位認定あり
地域ミッションインターンシップⅠ (新潟青陵大学:1年生・2年生)	下本町商店街	平成26年9月1日 ～9月18日	参加者:9名 単位認定あり(集中講義受講者)
地域ミッションインターンシップⅡ (新潟青陵大学:2年生・3年生)	本町商店街	平成26年8月20日 ～11月15日	参加者:9名 単位認定なし

3. 1 調査対象

調査対象については、平成26年8月31日～9月18日実施された短期大学部人間総合学科1年生を対象とした「地域ミッションインターンシップⅠ」の集中講義に参加した16名である。

参加学生については、ゼミなど特定の属性に所属するものではなく、人間総合学科に在籍する学生が自主的に集中講義を希望し参加した。

3. 2 調査方法は2つの方法を用いた。

- ① 地域インターン実施初日8月31日と実施最終日9月18日に本学の成長法測定として「対人/共感・受容」「役割理解/連携行動」等の10評価項目についてそれぞれ10段階の評価選択肢を用意した「地域ミッションインターンシップ：基礎力チェック票」を参加者に配布し、自己評価を実施。その10項目の中から、自身が目標とする3項目を選択し、活動時の目標を設定した。

(別紙 地域ミッションインターンシップ：基礎力チェック票 参照)

- ② 地域インターン実施前の8月と実施後の1月にPROGを実施した。PROGは「リテラシー」と「コンピテンシー」2つの測定項目を持っているが、本研究における学生の成長測定期間が3週間という短期間であり、知識を活用して問題を解決するリテラシーには大きな変化が無いと考え、経験から身につけた行動特性として人と自分にベストな状態をもたらそうとする力を測定しているコンピテンシーの結果を使用した。

3. 3 分析方法

本学「地域ミッションインターンシップ：基礎力チェック票」による学生自己評価とPROGを地域インターン実施前後に実施し、学生の成長として単純集計した。

3. 4 倫理的配慮

地域インターン参加学生に対し、事前の実施説明会において、研究目的、守秘義務、研究協力は自由意思であることを説明し、回答に同意を得た。

4. 結果

調査対象である学生16名全員と併せ、地域インターン時に学生と直接関わった地域連携コーディネーター2名の協力を得ることで、評価を進めた。

本学独自の指標となる「地域ミッションインターンシップ：基礎力チェック票」における集計は表2「地域ミッションインターンシップ 評価集計表」の通りである。

活動前評価では、学生が目標として各々3項目(16人で48の目標)を選択した。「創造・想像力」10名、「主体的行動」9名、「完遂」7名が選択上位であり、「対人興味/共感・受容」「役割理解/連携行動」が各2名、「情報収集」「目標設定」「行動を起こす」が各3名であることから、項目による選択人数差が見られた。

選択している10項目の自己評価を見ると、1.00から4.29の幅に分散していた。1.00台が2項目、2.00台が2項目、3.00台が4項目、4.00台が2項目であり全体の評価平均が2.87であった。

評価の高い項目が「完遂」4.29、「情報収集」4.00、「建設的・創造的な討議」3.40であり、評価の低い項目としては「役割理解/連携行動」1.00、「創造・想像力」1.70であった。

目標設定された数値は、5.50から9.33の幅で分散していた。5.00台が2項目、6.00台が1項目、7.00台が3項目、8.00台が1項目、9.00台が3項目であり全体平均が7.49であった。

高い目標としては「情報収集」9.33、「行動を起こす」9.33であり、低い項目としては「対人興味/共感・受容」5.50、「創造・想像力」6.60であった。

活動後評価では、5.40から8.00の幅で分散していた。5.00台が2項目、6.00台が5項目、7.00台が2項目、8.00台が1項目であり全体平均が6.55であった。

評価の高い項目は「行動を起こす」8.00、「完遂」7.71、「主体的行動」7.44であり、評価の低い目としては「創造・想像力」5.40、「対人興味/共感・受容」5.50であった。

評価者の平均では、4.88から7.00まで分散していた。4.00台が1項目、5.00台が4項目、6.00台が3項目、7.00台が2項目であり全体平均が5.84であった。

評価の高い項目としては「対人興味/共感・受容」「役割理解/連携行動」7.00、評価の低い項目としては「ストレスコーピング」4.88、「創造・想像力」5.00であった。

学生自身が感じている自己を成長させたい指標となる活動前評価と目標数値を比較すると成長項目としては「行動を起こす」6.67、「役割理解/連携行動」6.00、「情報収集」5.33と続いていた。逆に差が少ない項目としては、「建設的・創造的な討議」2.40、「対人興味/共感・受容」2.50、「目標設定」3.67となっており、全体平均で4.62であった。

実際に活動を行った前後での評価比較では、成長が大きいと評価されていたのが「行動を起こす」5.33、「役割理解/連携行動」5.00、「ストレスコーピング」4.50であり、成長が少ないと評価されたのが、「情報収集」2.00、「対人興味/共感・受容」2.50、「建設的・創造的な討議」「目標設定」が3.00となっていた。全体平均で3.68である。

各人が定めた目標と活動後の比較では、成長が目標を上回ったと評価した項目は「建設的・創造的な討議」0.60のみであり、目標と活動後評価が同一になったのが「対人興味/共感・受容」の1項目であった。目標を下回った8項目を見ると、「情報収集」-3.33、「完遂」-1.43、「行動を起こす」-1.33であり、全体平均で-0.94であった。

一方地域インターン実施期間中、学生の活動を見守っていた地域連携コーディネーターの評価と学生の活動後評価を比較すると、学生の自己評価を上回った項目は、「対人興味/共感・受容」1.50、「役割理解/連携行動」1.00の2項目であり、同一評価となったのが「情報収集」の1項目であった。学生の自己評価を下回った7項目を見ると「行動を起こす」-2.33、「ストレスコーピング」-1.88、「完遂」-1.50であり、全体平均-0.71であった。

PROGにおいては、表3「PROG：コンピテンシー結果比較一覧表」の通りの結果となった。地域インターン活動前の測定では、総合2.44と私立大学1年生の平均3.18を0.74下回る結果となっていたが、活動後の測定では3.19と0.75上昇したことで私立大学1年生平均を0.10ではあるが上回る結果となった。コンピテンシーを構成する3つの力「対人基礎力」は2.69から3.50へと0.81上昇、「対自己基礎力」は2.56から3.00へ0.44上昇、「対課題基礎力」は3.19から3.75へと0.56上昇し、全ての項目で成長が見られた。その結果「対人基礎力」では0.03、「対課題基礎力」では0.25私立大学1年生平均を上回った。3つの力を構成する9つの要素について見ると、活動前に平均値を超えていたのは「対課題基礎力」の要素である「実践力」が3.75と平均値3.62と唯一上回っていた。活動後になると「対人基礎力」の要素である「協働力」が4.00と平均値3.63を0.37上回り、対課題基礎力の要素では「課題発見力」が3.63で平均値3.49を0.14、「計画立案力」が3.69で平均値3.40を0.29、「実践力」が3.85で平均値3.62を0.23上回っていることから、3要素全てが平均値を上回った。

一方で対自己基礎力では「感情制御力」が3.31で平均値3.34を0.03、「自信創出力」が2.56で平均値3.27を0.71、「行動持続力」が3.13で平均値3.44を0.31下回り、3要素全てが平均値を下回る結果となった。

参考値ではあるが、表4「PROG：リテラシー結果比較一覧表」の通り、リテラシーを構成する4つの力では、地域インターン前後で「情報収集力」が2.75から3.06と0.31、「課題発見力」が3.13から3.25と0.12へと上昇、「構想力」は3.38で変化が無く、「情報分析力」は2.88から2.75へと唯一下降した。私立大学1年生平均との比較では、「情報分析力」が平均値を0.29、「課題発見力」が平均値を0.02、「構想力」が平均値

を0.46上回っていた。「情報分析力」が唯一平均値を0.06下回っていた。

表2 「地域ミッションインターンシップ 評価集計表」

	チェック項目		活動前評価	目標数値	活動後評価	評価者A	評価者B	評価者平均
Q1	対人興味／共感・受容 ：人に興味をもつ／ 相手の話に共感し 受けとめる	2	4.00	5.00	7.00	8.00	6.00	7.00
			2.00	6.00	4.00	8.00	6.00	7.00
		平均	3.00	5.50	5.50	8.00	6.00	7.00
Q2	役割理解／連携行動 ：自分や周囲の役割を 理解する ／互いに連携・協力 して物事を行う	2	1.00	9.00	6.00	8.00	6.00	7.00
			1.00	5.00	6.00	9.00	5.00	7.00
		平均	1.00	7.00	6.00	8.50	5.50	7.00
Q3	建設的・創造的な討議 ：議論の活発化や発展 のために自ら集団に 働きかける	5	1.00	6.00	9.00	9.00	5.00	7.00
			4.00	5.00	5.00	5.00	4.00	4.50
			4.00	6.00	6.00	7.00	4.00	5.50
			4.00	6.00	6.00	9.00	6.00	7.50
			4.00	6.00	6.00	3.00	4.00	3.50
			平均	3.40	5.80	6.40	6.60	4.60
Q4	ストレスコーピング ：欲求や恐怖などの悪 い影響を及ぼすスト レスを処理する	4	2.00	6.00	7.00	3.00	6.00	4.50
			3.00	8.00	6.00	6.00	6.00	6.00
			2.00	8.00	6.00	4.00	4.00	4.00
			2.00	6.00	8.00	6.00	4.00	5.00
			平均	2.25	7.00	6.75	4.75	5.00
Q5	主体的行動 ：自分の意志や判断に おいて自ら進んで 行動する	9	4.00	10.00	9.00	4.00	4.00	4.00
			1.00	9.00	7.00	7.00	6.00	6.50
			2.00	6.00	10.00	8.00	6.00	7.00
			1.00	8.00	8.00	8.00	6.00	7.00
			4.00	9.00	7.00	5.00	7.00	6.00
			4.00	10.00	6.00	7.00	5.00	6.00
			4.00	8.00	7.00	8.00	5.00	6.50
			4.00	8.00	7.00	8.00	5.00	6.50
			4.00	6.00	6.00	6.00	4.00	5.00
			平均	3.11	8.22	7.44	6.78	5.33
Q6	完遂 ：一度決めたこと、 やり始めたことはや り切る ／粘り強く取り組 み、やり遂げる	7	4.00	10.00	10.00	6.00	6.00	6.00
			2.00	4.00	6.00	8.00	4.00	6.00
			4.00	10.00	8.00	8.00	5.00	6.50
			6.00	10.00	8.00	5.00	5.00	5.00
			4.00	10.00	6.00	8.00	5.00	6.50
			4.00	10.00	7.00	8.00	5.00	6.50
			平均	4.29	9.14	7.71	7.43	5.00
Q7	情報収集 ：必要に応じて、適切 な方法を選択して 情報を収集する	3	6.00	10.00	4.00	5.00	6.00	5.50
			4.00	10.00	8.00	6.00	5.00	5.50
			2.00	8.00	6.00	8.00	6.00	7.00
			平均	4.00	9.33	6.00	6.33	5.67
Q8	目標設定 ：ゴールイメージを 明確にし、目標を 立てる	3	4.00	10.00	7.00	4.00	4.00	4.00
			4.00	5.00	6.00	6.00	4.00	5.00
			2.00	6.00	6.00	8.00	4.00	6.00
			平均	3.33	7.00	6.33	6.00	4.00
Q9	行動を起こす ：自ら物事にとりかか る、実行に移す	3	2.00	10.00	8.00	5.00	7.00	6.00
			4.00	10.00	8.00	8.00	5.00	6.50
			2.00	8.00	8.00	3.00	6.00	4.50
			平均	2.67	9.33	8.00	5.33	6.00
Q10	創造・想像力 ：既存の発想にとらわ れず、課題に対して 新しい解決方法を考 える	10	1.00	9.00	7.00	6.00	5.00	5.50
			2.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00
			1.00	6.00	10.00	6.00	4.00	5.00
			1.00	5.00	8.00	8.00	5.00	6.50
			2.00	8.00	2.00	3.00	6.00	4.50
			2.00	6.00	3.00	2.00	4.00	3.00
			2.00	10.00	6.00	3.00	5.00	4.00
			2.00	6.00	5.00	6.00	4.00	5.00
			2.00	6.00	5.00	7.00	6.00	6.50
			平均	1.70	6.60	5.40	5.10	4.90

表3 「PROG：コンピテンシー結果比較一覧表」

総合	3つの力			9つの要素								
	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
				親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
インターンシップ前	2.44	2.69	2.56	3.19	3.00	2.63	3.00	2.50	2.94	3.13	3.00	3.75
インターンシップ後	3.19	3.50	3.00	3.75	3.44	4.00	3.31	2.56	3.13	3.63	3.69	3.88
	0.75	0.81	0.44	0.56	0.25	1.00	0.38	0.31	0.06	0.19	0.50	0.13
私立大学1年生平均	3.18	3.47	3.36	3.50	3.72	3.63	3.16	3.34	3.27	3.44	3.49	3.62
私立大学文系1年生平均	3.22	3.55	3.37	3.45	3.82	3.71	3.19	3.35	3.26	3.46	3.37	3.57

表4 「PROG：リテラシー結果比較一覧表」

	4つの力			
	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力
インターンシップ前	2.75	2.88	3.13	3.38
インターンシップ後	3.06	2.75	3.25	3.38
	0.31	-0.13	0.13	0.00
私立大学1年生平均	2.77	2.81	3.23	2.92
私立大学文系1年生平均	2.63	2.63	3.11	2.85

5. 考察

これまでのインターンシップでは、学生の評価については受入先の評価が中心であり、各大学で作成されたセルフチェックを活動前後に実施することが多くになっていた。本研究において実施した評価フローにおいては、学生自身によるセルフチェック後の目標設定とその振り返りに重点を置くことで、与えられた目標ではなく、自分自身が設定し自分の意思として目指すべき姿をイメージした取り組みとした。

学内で作成した「地域ミッションインターンシップ：基礎力チェック票」による自己評価では、地域インターン実施事前事後比較で、全ての項目について学生は成長を感じている結果となった。単純に基礎力をチェックしただけに終わらず、学生自身が目標項目を明確にした上で取り組みを行い、活動後に再度自己についての見つけなおしを行い、今後の課題確認に結び付けたことが効果的であったと考える。

「活動前：現状把握（自己評価）」→「課題となる項目を目標設定」→「目標を意識した活動」
→「活動後：現状把握（自己評価）」→「今後の課題確認」

学生にとっては、単純なセルフチェックでは、自己課題を明確にしないまま活動することとなり、活動後にセルフチェックを行ってもどのような点で自身が変化しているのかが十分に確認できない状況であるが、今回のフローにより意識付けが機能することの有用性が示された。

自己評価と併せさらにPROGを実施したことで、自己評価に留まらず第三者の尺度による評価でもその

成長を確認することが出来た。PROGを構成3つの力の一つである「対課題基礎力」は、「情報収集」と「行動を起こす」力が求められるが3.75と一番高い結果となった。これは「地域ミッションインターンシップ：基礎力チェック票」における学生自己評価においても「情報収集」6.00、「行動を起こす」8.00と高い結果になっていた。

学生の自己評価で地域インターン前後の伸びが5.00と大きかった「役割理解/連携行動」について見ると、PROGの対人基礎力を構成する「対人基礎力」を構成する「協働力」の伸びが9つの構成要素で1.00と最も高い伸びを示した。

一方で、「対自己基礎力」を構成する「自身創出力」は2.50から2.56とわずか0.06の伸びに留まっていた。これは、「地域ミッションインターンシップ：基礎力チェック票」「対人興味/共感・受容」における活動後評価が5.50と低迷していることとの関連性が伺えた。同じくPROGの「対自己基礎力」を形成する「行動持続力」についても、2.94から3.13と0.19の伸びに留まっているが、この点については学生自身の日報から、継続した動きが難しくなっている様子が見られ、この結果を裏付けていた。

2つの異なる評価を用いたことで、多面的に地域インターンに参加した学生の評価を確認し、学生の納得感を高め、自己成長の認識と次の課題を明確にさせることは出来たが、今後の学生生活において、地域インターンを経験した学生がどのように意識した行動が取れるかについては今後の検証が必要であり、PROGの中長期評価を活用することを含め、継続した取組みが課題となる。

今回は、短期間、少人数による検証であるため、本学で実施している体験型インターンシップへの参加者も含めた検証を計画し、有用性を確認する予定である。

6. 結論（終わりに）

今年度地域インターンにおいては、「地域ミッションインターンシップ：基礎力チェック票」を活用した自己評価と自己課題の設定と振り返り、PROGを組み合わせることでこれまで課題となっていた本学インターンシップ評価基準について、一つの方向性を提示できた。

課題としては、基礎力チェック票作成時に、学生が自己の状況を認識しやすくなるように用意したレベルを表す例題が、学生への説明不足からか、学生による受け取り方に個人差が大きくなっていた。次年度に向けて、見直しが必要である。

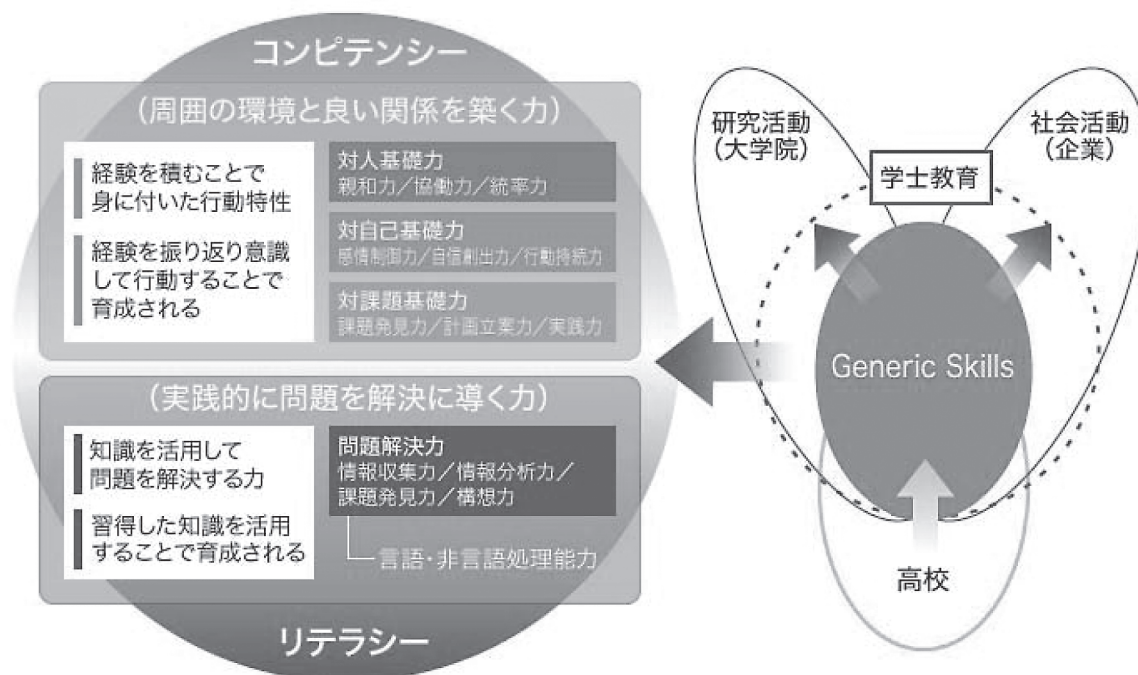
さらに、PROGの利用については、一定の効果測定には有効性が見られたが、地域インターンのような短期間での成長測定に用いることへの効果検証及び学生指導への有効活用については、次年度以降の課題としたい。

なお、地域インターン実施にあたっては、新潟中心商店街協同組合様、新潟商工会議所様、お笑い集団N A M A R Aおよび学内関係者では地域連携コーディネーターとして参加頂いた西田卓司様、成田雅史様・加藤大輔様、キャリアセンター主席調査役田村瑞穂様に感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 須永一道・齋藤智・柳澤利之. 地域商店街との連携による新PBL型インターンシップの取り組み. 新潟青陵大学短期大学部研究報告44号 (91頁～100頁) .
- 2) 齋藤 智. インターンシップ前後の学生成長測定としてのPROG法によるジェネリックスキル測定導入. 新潟青陵学会誌第7巻第2号 (50頁) .
- 3) 河合塾. ホームページ PROGの特長

参考資料：PROG概念図



別紙 地域ミッションインターンシップ：基礎力チェック票

	チェック項目	選 択 肢		チェック項目	選 択 肢
Q1	対人興味／共感・受容 ：人に興味をもつ／相手の話に共感し受けとめる	1 自分の都合だけを考えてしまう	Q6	完遂 ：一度決めたこと、やり始めたことはやり切る ／粘り強く取り組み、やり遂げる	1 物事に取り組むのは面倒なので、何もしたくない
		2 自分の話を優先しがちで、相手の話を最後まで聞くことができない方だ			2 一度始めても、すぐに面倒になってやめてしまったり、我慢が続きにくい方だ
		3			3
		4 相手の話を最後まで聞き、考えや言いたいことを理解しよう心がけている			4 一度始めても、障害や困難を感じると、投げ出してしまいがちだ
		5			5
		6 相手の立場に立って感情を受けとめながら、相手の考えや言いたいことを理解することができる			6 一度始めたことは最後まであきらめず頑張る方だ
		7			7
		8 相手の感情だけでなく、発言の背景までも引き出しながら話を聴き、理解していることを態度や言葉で示すことができる			8 一度始めたことは必ず最後までやり切る
		9			9
		10 相手の発言を引き出して、考えや感情を理解していることを示すだけでなく、相手が前向きな行動ができるように動機付けすることができる			10 障害があっても、一度取り掛かったことは自分が納得できるまで粘り強くやり遂げる
Q2	役割理解／連携行動 ：自分や周囲の役割を理解する／互いに連携・協力して物事を行う	1 集団の中で割り当てられた仕事でも、気分でないことがある	Q7	情報収集 ：必要に応じて、適切な方法を選択して情報を収集する	1 情報収集のための行動をしようと思わない
		2 集団の中で割り当てられたことは、人から非難されない程度にやる			2 課題解決に向けて、どんな情報を集めればいいかがなかなか思いつかないことが多い
		3			3
		4 集団の中で、周囲に迷惑をかけないよう、自分の担当の仕事をきちんと遂行することができる			4 情報収集の範囲が限定的で、人から別の観点を指摘されることが多い
		5			5
		6 自分に割り当てられたことでも、最良の結果ができるように、自分なりに工夫して課題に取り組んでいる			6 テーマや課題に対して、自分の思いつくままに様々な方法で情報を集めることができる
		7			7
		8 自分に割り当てられたことが周囲にどんな影響を及ぼすかを考え、最良の結果ができるように課題に取り組んでいる			8 課題発見・課題解決に向けて、どんな観点が必要かを検討したうえで、幅広く情報を集めることができる
		9			9
		10 成果を上げるために、自分に割り当てられたことにとどまらず、集団の中で果たすべき役割を自ら考え、周囲と協力して課題に取り組むことができる			10 日頃から（学業、社会活動、仕事などに関連する）幅広い情報に関心を持ち、収集したり、蓄積したり、人脈を拡げることを怠らない
Q3	建設的・創造的な討論 ：議論の活発化や発展のために自ら集団に働きかける	1 他人の話を聞いていない	Q8	目標設定 ：ゴールイメージを明確にし、目標を立てる	1 課題に対して、取り組もうとはしない
		2 議論の場では、他者の発言に対して賛否を返さないなど、周囲に関心を示すことは少ない			2 課題に対して、自分は「ここまでやりたい」という目標（ゴールのイメージ）を設定することは少ない
		3			3
		4 他者の発言に賛否を返すなどして、議論には参加する			4 短期的なテーマ・課題に対して、自分は「ここまでやりたい」という目標（ゴールのイメージ）の設定はするが、高過ぎたり抽象的過ぎたりすることが多い
		5			5
		6 その場の議論が活発になるように、自ら進んで意見を発表していく			6 短期的なテーマ・課題であれば、達成する見込みのある目標（ゴールのイメージ）を自分で設定することができる
		7			7
		8 全員に発言を促し、整理したり方向づけたりしながら、議論を発展させていくことができる			8 課題に取り組む時は、「ここまでやりたい」という目標と同時に、達成に向けた途中段階の具体的な目標も設定して進めることができる
		9			9
		10 意見が対立した場合でも、互いの意見を活かしながら、さらに創造的な結論に導くことができる			10 課題に対して、周囲から期待される水準以上の高い目標（ゴールのイメージ）を自ら設定し、その達成に向けて物事を進めることが多い
Q4	ストレスコーピング ：欲求や恐怖などの悪い影響を及ぼすストレスを処理する	1 気分が落ち込み、人と接することができない	Q9	行動を起こす ：自ら物事にとりかかる、実行に移す	1 やるべきことでも、実行することができない
		2 ちょっとしたことでも、動揺したり落ち込んだりして、なかなか立ち直れない			2 やらなければならないことでも、言い訳をつけてなかなか実行に移さないことが多い
		3			3
		4 ちょっとしたことですすぐ動揺したり落ち込んだりするが、あまり長くは引きずらずに、次に進むことができる			4 多少いやなことでも、やらなければならないことは、嫌々ながらも行動に移す方だ
		5			5
		6 失敗した時や強いプレッシャーで動揺したり落ち込んだりすることはあるが、長くは引きずらずに、次に進むことができる			6 自分がやらなければならないことはすぐ実行するが、やったほうが良いと思うくらいのことでは、自らすすんで行動することは少ない
		7			7
		8 ストレスやプレッシャーがかかる場面でも、あまり動揺しないで上手く対処できる			8 やらなければならないことだけではなく、やったほうが良いことについても誰かがやるのを期待するのではなく、自らすすんで取り組んでいく方だ
		9			9
		10 ストレスやプレッシャーがかかるような状況では、自らその原因に働きかけて、ストレスやプレッシャーそのものの速やかな解消に努める			10 やらなければならないことだけではなく、やったほうが良いことについても躊躇せず、すぐに行動に移すことが多い
Q5	主体的行動 ：自分の意志や判断において自ら進んで行動する	1 他人から指示されないと行動できない	Q10	創造・想像力 ：既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい解決方法を考える	1 既存の状態で全て良いと思う
		2 自分から進んで行動するより、細かなことでも人から指示されるのを待って行動することが多い			2 既存の考えや、書かれている状況にとらわれて、新しい発想をすることが少ない
		3			3
		4 任されたことは、最後まで自分の責任で行うより、途中途中で人から判断してもらいながら進めることが多い			4 物事を考える時には、出来るだけ制約条件や過去の習慣にとらわれないよう心がけることができる
		5			5
		6 任されたことは、細かな指示を仰がなくても、自分の責任で判断しながら進めることができる			6 一見関連の無いような概念同士を結びつけて新しい発想をしたり、良い事例の趣旨を理解し、他の分野に応用することができる
		7			7
		8 自分への期待を意識して、すべきことを自分で考え行動に移すことができる			8 話し合いやブレインストーミングでは、独断的で付加価値の高い発言が多いと良く言われる。またはその自覚がある
		9			9
		10 求められたり期待されたりすること以上のことを、自発的に行うことができる			10 アイデアに行き詰まった状況でも、様々な角度から柔軟に発想し、その場の議論を活性化することができる